

草の実分校 地域支援通信 きらり

かがやき特別支援学校草の実分校支援部では、肢体不自由児教育に関する情報を通信で発信していきます。内容としては、市町への地域支援の際に学習面や自立活動に関する質問が多かったものを共有することで、より多くの方に肢体不自由教育についての理解が深まることを願っています。実践報告、研修会、公開授業の情報も掲載していく予定です。

からだに関する質問に関しては、三重県立子ども心身発達医療センターのセラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）にご協力をいただきます。医療の訓練を、教育の自立活動の目標で取り組めるように きほんの『き』のコーナーを作りました。ぜひご覧いただきご活用ください。

きほんの『き』～お箸編～



A先生

今年度から肢体不自由児学級の担当をしています。担当する小2の児童ですが、箸を使って食べ物を切ったり、つかんだりできません。私が見本を見せて教えますが、上手にできません。どうしたら上手に使えるようになりますか？



支援部教員

肢体不自由のお子さんを理解するには、子どもの発達の順序を知っておくと良いですよ。どこに課題があるのか、何をしなければならぬかのヒントになります。お箸に関しては、日常生活の動作なので、作業療法士(OT)に詳しく説明をしていただきました。

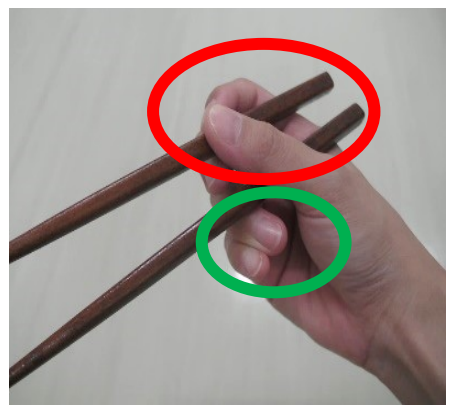
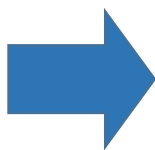
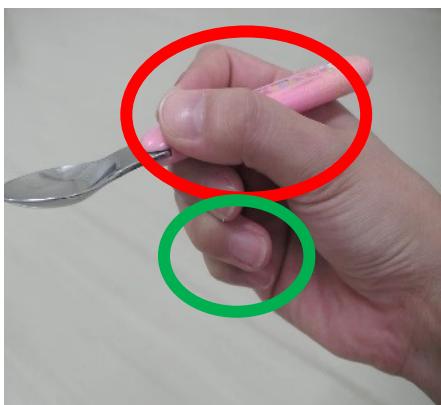


作業療法士
(OT)

【 箸操作の獲得 】

スプーンの操作でも箸の操作でも、5本的手指の中で「道具を動かす指」と「固定する指」が分かれていきます。これを分離運動と言います。この運動の獲得により、箸を操作しやすい手がつくられます。スプーン操作で親指・人差し指・中指の3本で道具を固定することが獲得されることにより、箸の持ち方の基礎をつくることができます。

2歳頃から持ちはじめ、5歳頃に操作が習熟するといわれています。





段階付け① 持つことに慣れる

★箸を動かすことができるようになるためには、細い箸を安定させて持つことから必要です。まずは、箸を揃えて持ったまま手首を動かすことから始めましょう。

段階付け② 少しだけ動かす

★指先で箸を固定できるようになったら、小さくつかみやすいもの（滑りにくい素材、くぼみがある形状など）を使い、少しずつ動かしてみましょう。急に大きな物をつかもうとすると、指先に力が入ってしまいます。箸を握ってしまったり、交叉させてしまったりすることにつながるかもしれません。

段階付け③ 大きく動かす

★大きなものをつかむために広い範囲で箸を動かす練習です。提示する位置を変えたりつかむ物の素材を硬いものにしたりすることで難易度がさらにあがります。



なるほど！そうだったのですね。細かく丁寧に見てあげないといけなかったのですね…担当児童は、段階付け①の手首を動かすことに課題がありそうです。明日、確認してみます。



自立活動を充実させるには、子どもの実態把握をすることが大事になります。実態把握がずれると、目標もずれてしまいます。目標の導き方は、時間が足りないのでまた説明させてください。参考に段階①の目標例と各段階のおすすめの教材写真を紹介しますね。

	目 標	内 容	手 立 て
段階付け①	お箸を揃えて持ちながら輪ゴムを10回すくうことができる。	・輪ゴム すくい	・手首の動きを実際に確認してから活動に入る。

※できるようになってきたら難易度を変えるためにゴムの量を調整したり、本数を指定したりしてステップアップすることができます。児童のモチベーションを保つために、初めは間違えさせない、失敗させない配慮や児童に合った楽しい活動になるような工夫も大事ですね。

段階付け①



輪ゴムすくい

段階付け②



小さなスポンジつまみ

段階付け③



大きなスポンジつまみ



自立活動の目標を目指した活動内容として取り組んでみます。発達を知っておくことが実態把握には大切なのですね。知っているのと、知らないのでは大きな差ですね。他にも質問したいことがあるので、また次回も教えてください。

研修会 案内

・阪奈発達学びの会 第11回学習会

2月19日(土)10:00～12:00(ZOOM)『模倣について』

LINE または facebook から主催者に参加希望のメッセージを送信してください。

・やまぐち発達臨床研究センター 2020 春季ハイブリッド型セミナー

3月21日(月・祝)9:30～16:00(ZOOM)『衣服の脱着の指導』

詳細は、HP をご覧ください。 講師:川間健之介 川間弘子